

効率的な漢字学習法の検討

—細筆と鉛筆の比較—

抄 録

今の小学校では、毎日課題で漢字練習ドリルを行う。しかし、何度も反復練習をする覚え方だけでは、勉強している実感が湧かず、子供たちにとって有意義な方法でないと考えた。そこで、習字を用いた実験を行った。その結果から、細筆と鉛筆では細筆の方がより効率よく漢字を学習することができた。

キーワード：小学校，毛筆書写，細筆，鉛筆，漢字練習ドリル

1. はじめに

1.1 研究動機

私は、幼稚園の頃から約10年間習字を習っているが、現在の小学校での書写の授業時数では、技術を習得するためには少ないと感じられた。実際に調べてみると小学校での書写の授業時数は3年生～6年生の4年間で毎年30時間、計120時間となっている一方、家庭科の授業時数は5年生～6年生の2年間で計115時間になっていた。（家庭科を示したのは、比較するためである。）つまり、「書写」は「家庭科」よりも多くの配当時数があることがわかる（大谷，2012）。けれども、書写は国語科の配当時数に含まれて示されているので、毛筆書写の授業数を減らしても、「国語科の年間授業時数が充足されていれば良い」となっているのではないかと考えた。

1.2 研究目的

ICT教育の普及による読みやすいフォントの導入、パソコンや携帯電話などが急速に普及し、情報伝達手段に大きな変化が生じてきた（大谷，2012）。それに伴い、日常生活で文字を書くことが減少した。また、前述した通り、現在の小学校での書写の授業時数では、技術を習得するためには少ないと感じられた。このことから私は、課題学習として、漢字練習ドリルを通して書写に触れる機会を増やすべきだと考えた。そこで漢字練習ドリルを毛筆書写することは、漢字学習を効率良く学ぶことができるかを考える。

1.3 毛筆書写のメリット

毛筆書写のメリットは計4つある。1つ目は、小学校から毛筆書写を続けていれば美しい字が書けるようになる。特に低学年位の上達が目覚ましいと言われている。また、美しい字が書けると色々な場面で役に立つ。文字は、書き手の第一印象を決める重要な役目をもっており、雑で乱れた字を書く人より、美しく整った字を書く人の方が良い印象を持たれる。2つ目は、字の筆順・字形の理解に効果がある。毛筆書写で

は、「トメ・ハネ・ハライ、偏・旁のバランス」といった基本的なパーツを学習し、基礎を身に付け、どのようにすれば綺麗な字が書けるようになるのか頭の中で熟考するようになる。それにより、より一層美しい字を書くことができる。3つ目は、集中力が高まる。硬筆では、紙と鉛筆を用いて字を書くのに対して、毛筆書写では、墨と筆を用いて字を書く。消しゴムが使えないので、途中で書き損じをするとその作品を手直しすることができない。その結果、1字1画に神経を集中させて書くようになる。また、書く文字が多くなればその分集中力が必要となる。4つ目は、姿勢がよくなる。一度変な姿勢を身に付けると矯正することは難しいが、小学生の頃から正しい姿勢を身に付ける習慣ができる。以上の計4つのメリットがあり、繰り返し何度も鉛筆で書くよりも「早く・丁寧」に覚えることを優先するべきだと考察した。

2. 研究方法

2.1 アンケート調査

計80人（12歳2人，13歳28人，14歳32人，15歳10人，16歳8人 {男子44人，女子36人}）を対象に以下のアンケートを行った。

2.1.1 アンケート調査の内容

- 1) あなたは今、習字を習っていますか
- 2) 習字を習っている・習っていたことがある人は何年間習っていましたか
- 3) あなたは習字が好きですか
- 4) あなたは習字を必要と思いますか（理由も含めて）
- 5) ICT教育の普及ですべての人が読みやすいフォントの導入が進んでいることにより、毛筆の授業は今後どうなると思いますか

2.1.2 アンケート調査の結果

※表の%は少数第2位を四捨五入

- 1) あなたは今、習字を習っていますか（表①）

はい	いいえ
7.5%（6人）	92.5%（74人）

「いいえ」92.5%（74人）となり、ほとんどの人が習っていないことがわかる。

- 2) 習字を習っている・習っていたことがある人は何年間習っていましたか（表②）

	1年間	2年間	3年間	4年間	5年間	6年間	7年間	8年間	9年間	10年間	11年間	12年間	計
今も習っている	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	3人	0人	0人	1人	6人
今は習っていない	2人	4人	4人	3人	2人	2人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	20人

9年間続けている人が最も多い結果になった一方、習っていたが今は習っていない人は2,3年間で辞めている人が最も多い結果となった。

3) あなたは習字が好きですか (表③)

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
11.3% (9人)	42.5% (34人)	28.7% (23人)	17.5% (14人)

「好き・どちらかといえば好き」計53.8%「どちらかといえば嫌い・嫌い」計46.2%となり、あまり差がないことが分かる。

4) あなたは習字を必要と思いますか (理由も含めて) (表④)

思う	思わない
68.7% (55人)	31.3% (25人)

「思わない」31.3%と、思いのほか習字を必要でないと思っている人が多い結果となった。

「思う」と回答した人の理由 (一部)

※本人による記述のまま

日本の文化だから、字の美しさを保つため、気持ちが表れる、相手を不快にさせない、精神力が付く、ノートを貸してもらった時字が汚くて読めなかったことがあった

「思わない」と回答した人の理由 (一部)

※本人による記述のまま

読めれば良いと思う、鉛筆で書けたらいい、日常で筆で字を書くことがない、インターネットの時代だから、パソコンでやればいい、習字をしても字が綺麗にならなかった、習字は美術だから興味のある人や好きな人は個人的にやればいい

5) ICT教育の普及ですべての人が読みやすいフォントの導入が進んでいることにより、毛筆の授業は今後どうなると思いますか (一部)

※本人による記述のまま

- ・重要度は低くなるかもしれないが、毛筆で文字を書く機会は将来いくらでもある
- ・字を綺麗に書ける人はどのような場面でも好印象であるので、毛筆の授業で字を綺麗に書く練習をすべきだと思う
- ・毛筆は日本の伝統文化の象徴であるものなので、単に読みやすい・読みにくいなど関係なく、筆を持ち書くことが大事だと思う
- ・ICT教育が進んで行くのなら毛筆の授業は文化や作法として取り入れられるのだと思う
- ・学校に来るという習慣が続く限りは続くと思う
- ・電子機器に書くのが上手になるように授業が行われる
- ・回数は減るかもしれないが無くなりほしくないと思う
- ・選択制になる

3. 実験

3.1 実験概要

漢字は、書かなければ覚えることはできないが、鉛筆で何度も反復練習をする覚え方だけでは、勉強している実感が湧かず、子供たちにとって有意義な方法でないと考えた。そのため、漢字の効率の良い学習方法を模索するために漢字練習ドリルを毛筆書写することで毛筆書写の漢字学習方法としての有効性をはかる。

3.2 実験に必要なもの

細筆、半紙、文鎮、下敷、墨、硯、鉛筆（2B）、ノート、タイマー、経本

3.2.1 実験の対象者

実験の対象…筆者（中学3年 男子 前恤り約10年間習字を習っている）

3.2.2 実験手順

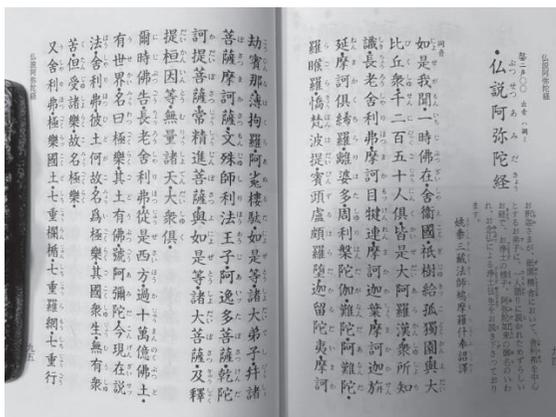
以下の順で実験を行った。

- (1) 細筆で1日1行、写経する。かかった時間をタイマーで計測する
- (2) 計測した時間と同じ時間、鉛筆で繰り返し写経する（写真①）
- (3) (1), (2)を1週間、毎日行う
- (4) 1週間後、覚えたお経を唱え親に聞いてもらう
- (5) そこにかかった時間をタイマーで計測する
- (6) 細筆と鉛筆どちらの方が、お経をより早く正確に唱えたかを表にまとめる
- (7) 以上を計3回行う

※写経内容は「仏説阿弥陀經」を参考に1行（19文字）ずつ覚える。覚える内容は毎度違うところとする。（写真②）

「仏説阿弥陀經」にする理由としては、日常的な文章でなく難しい漢字が使われているからである。

図① 仏説阿弥陀經



図② 写経の様子



3.2.3 実験結果

↓ 細筆で行う (表⑤)

	タイム	ミス
1回目	37秒04	2個
2回目	40秒52	4個
3回目	39秒16	3個
合計	116秒72	9個

↓ 鉛筆で行う (表⑥)

	タイム	ミス
1回目	35秒55	7個
2回目	36秒56	8個
3回目	39秒31	5個
合計	111秒42	20個

※ここでのミスは、お経内容が正確に唱えられなかった個数のことを示す。

4. 考察

アンケート調査の結果から、習字を習わないのは、親が子供の段階で習わせる必要性が感じにくいと思っているからだと考えた。(表①)

9年間続けている人が最も多い結果になった一方、習っていたが今は習っていない人は、2、3年間で辞めている人が最も多い結果となったのは、中学受験や高校受験のタイミングで辞めてしまう人が多いからだと考えられる。(表②)

習字が好きかどうかにより差がないのは、字が綺麗になっても書写の楽しさが分からないという人が多いと考えた。(表③)

習字を必要と思うかについては、「思う」と答えた人は、相手のことを考えて必要だと感じている。「思わない」と答えた人は、インターネットなど情報伝達手段の発達によるものが多い印象だった。(表④)

ICT教育が発達して回数は減るかもしれないが無くなりほしくないと考えている一方、電子機器に書くのが上手になるように授業が行われるなどといった新たな情報伝達手段の発達について考えている人もいた。(アンケート内容5)

表⑤、⑥の合計タイムとミスから見て細筆で行うと鉛筆で行うよりもタイムが約5秒遅くなる。しかし、ミスの差が11個と大幅に間違いをしにくくなるのがわかる。また、鉛筆で書いている途中に「手が痛い」といった他のことに気が散るところがあった。

5. 結論

小学校から課題学習として、前述の4つのメリットから、漢字練習ドリルを通して書写に触れる機会を増やせば美しい字が書けるようになる。けれども、「トメ・ハネ・ハライ、偏・傍のバランス」といった、あくまでも基礎的な学習で留め、どのように書けば綺麗な字が書けるようになるのか頭の中で熟考することが大切であることがわかった。また、実験の結果から漢字練習ドリルを毛筆書写することは、漢字学習を効率良く学ぶことができるといえる。

6. 今後の課題

今後は、家庭で行う習字として、習字道具をまとめた簡易キットをつくろうと思案する。そのために、どのような道具の種類・設置をすれば効率よく習字を始めることができるのか調査をしていきたい。

7. 参考文献

大谷俊彦 『「学び」のある書写授業の創造』 (2021年8月10日)

https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/contest/tkyoiku/no28/28_jh_p32-41_ooya.pdf

書道入門 『習字・書道を学ぶことのメリット』 (2021年9月14日)

<https://shodo-kanji.com/a1-1-2advantage.html>

鈴木暁昇 (2017) 『極める！基礎習字練習帳』 光文社

全国大学書写書道教育学会 (2009) 『明解 書写教育』 萱原書房

日本書道ユネスコ登録推進協議会 (2018) 『書道文化に関する基礎調査報告書』 (2021年8月10日)

<http://www.shodoisan.jp/images/152.pdf>

平形精一 (2011) 『文字文化と書写書道教育』 萱原書房

文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説・国語編』 (2021年8月10日)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_002.pdf